

### 【臨床指標3】 初発の5大がんのUICC病期分類別ならびに再発患者数

～解説～

現在、日本で最も多い5つのがん（胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・肝がん）の進行状況（Stage）ごとの症例数を集計したものです。がんの症例数を調べることで、その病院がどの程度がん治療に積極的に取り組んでいるかを知ることができます。また病気の進行状況ごとにみることで、その病院の診療の幅を知ることができます。

当院の特徴としては、肺がんではStageⅣ症例が多いことから、重症の患者さんが多いことが分かります。また、どのがんも比較的StageⅠが多いことから、早期での治療が行なわれていることが分かります。

なお、検査入院において、がんの確定に至らない場合は不明となっています。

※Stageとは、がんの進行状態を示すものであり、0期からⅣ期の5つに分類されます。0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態であり、Ⅳ期に近いほどがんが広がっている状態となります。

平成26年度初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数 (人)

5大がん	StageⅠ	StageⅡ	StageⅢ	StageⅣ	不明	再発
胃がん	63	17	28	10	111	61
大腸がん	41	54	56	45	18	90
乳がん	36	45	8	2	1	30
肺がん	52	12	44	81	36	58
肝がん	8	9	4	4	0	100